

13:32 私たちもあなたがたに、神が父祖たちに約束された福音を宣べ伝えています。

13:33 神はイエスをよみがえらせ、彼らの子孫である私たちにその約束を成就してくださいました。詩篇の第二篇に、『あなたはわたしの子。わたしが今日、あなたを生んだ』と書かれているとおりです。

13:34 そして、神がイエスを死者の中からよみがえらせて、もはや朽ちて滅びることがない方とされたことについては、こう言っておられました。『わたしはダビデへの確かで真実な約束を、あなたがたに与える。』

13:35 ですから、ほかの箇所でもこう言っておられます。『あなたは、あなたにある敬虔な者に滅びをお見せになりません。』

13:36 ダビデは、彼の生きた時代に神のみこころに仕えた後、死んで先祖たちの仲間に加えられ、朽ちて滅びることになりました。

13:37 しかし、神がよみがえらせた方は、朽ちて滅びることがありませんでした。

13:38 ですから、兄弟たち、あなたがたに知っていただきたい。このイエスを通して罪の赦しが宣べ伝えられているのです。また、モーセの律法を通しては義と認められることができなかったすべてのことについて、

13:39 この方によって、信じる者はみな義と認められるのです。

13:40 ですから、預言者たちの書に言われているようなことが起こらないように、気をつけなさい。

13:41 『見よ、嘲る者たち。驚け。そして消え去れ。わたしが一つの事をあなたがたの時代に行うからだ。それは、だれかが告げても、あなたがたには信じがたいことである。』」

「アブラハムの子孫」とは民族的ユダヤ人であり当然ユダヤ教徒で、「神を恐れかしこむ方々」とは異邦人（民族的にはユダヤ人ではない）であってユダヤ教を信じる人々のことです。パウロはユダヤ教の中にいる人々とも共通するところは、その聖書理解に立ち、しかしその間違いに関してははっきりと述べています。つまりユダヤ人たちが約束の救い主であるイエスを殺したということです。

また神の約束と、死に打ち勝った勝利とを明確に述べています。そして「信じる者はこの方によって開放される」という明確な救いの良き知らせを告げています。これが伝道のことばです。私たちはそのことばが伝わるように、生き、愛し、交わっているのです。

そして最後にパウロは聞いた人々の決断を促します。「滅び」ということばを使っていますが、救いが永遠の滅びからの救いである以上避けられないことばでもあります。これらのことを、愛と聖霊によって語る必要があるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

